

被災地は今も、現在進行形

「あの日」から5年近くたった今も、被災地では引切り無しに工事車両が行き交っています。しかし、復興には未だ未だ遠い景色が広がっています。先が見えにくい不安の中での被災者の方々は、精神的ストレスが、心と体に影響を及ぼしていると言われていています。それは子どもから高齢者までに及んでいます。

放射能汚染と共存せざるえない福島の被災者は、暮らしはもとより将来への健康問題に「恐怖」とも言うべき不安を抱え、今を過ごしていることを、私たちは忘れてはならないはずで

3.11から何を学んだのかを問い続けながら今月も、この轍をお届けします。

取り残された動物たち



いったいどれだけ多くの動物たちの命が無残にも絶たれたのだろう。

命を奪われるまでに、飼い主を待つ長い長い時間が続いた。

つながれたまま、柵に入れられたまま、どうして誰もいなくなって

しまったのかも、どうして水やご飯が与えられないのかも分からないまま待ち続け、飢え、渇き、力尽きた沢山の命。飼い主の思いは、誰もがすぐに戻れると思っていたのに…一時帰宅が許されたのは事故から2ヶ月がたった。飼い主が見たのは変わり果てた多くのペットや家畜だったりした。もちろん、これらの命を救う活動を命がけで行っていた人々がいたのだが…そこはあの日から、今も立ち入り禁止区域に変わりが無い。

なあ、「牛飼」って、しってるか？

牧場で、牛のせわして、くらしてる。

それが牛飼だよ。かんたんだろう？でも、あのでっかい地震のあとは、かんたんじゃなくなった。うちの牧場は、原子力発電所の近くにあったからだ。

希望と絶望の狭間で

この文は「希望の牧場」という絵本の冒頭です。この絵本は、福島第一原子力発電所の警戒区域内取り残された「希望の牧場 ふくしま」のことをもとに作られました。

人間が消えた土地に、何百頭もの牛が生きている。… そのすがたに「希望を感じる」って人もいる。

(中略) 希望なのかな。弱った牛が死ぬたびに、ここには絶望しかないような気もする。…

この絵本は図書室にあり、すぐ読めて、考えることが満載の作品です。読んでみませんか。

裏面はお知らせ&お願いです。



今年もお届けしましょうよ!!

仮設住宅にお住まいの子どもたちに、お年寄りに、ささやかですが、気持ちのこもったクリスマスプレゼントをお届けする予定です。

現在、防寒用としてはマフラーや帽子を準備しました。

その他、小さい子にはぬいぐるみなども考えています。

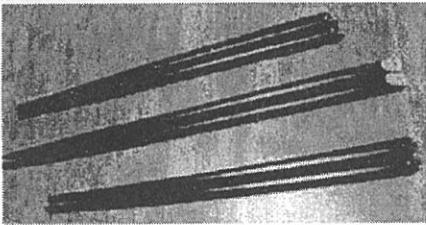
皆さんも募金や、オリジナル販売グッズを買っていただき、プレゼント購入資金のご協力をお願いいたします。

販売しています!

新年を迎えるにあたり、お箸を取り替えませんか?

赤・黒・紫の3色があります。

S+、AGNESマーク入りと、マークなしの2種類があります。¥ 1膳 300円 2膳 500円です。



気仙沼水産加工品 わかめの茎の柴漬け

超人気食品です!ヘルシーです。そのままでも、生野菜に混ぜてもOKです! これは夏に仮設住宅訪問で戴き、その美味しさに魅かれて

お取り寄せしたものです! ¥ 200g入りで300円

その他、アクセサリーなども販売しています!
3者面談にお越しの際に、ご購入にご協力下さい!



実行委員大募集!

あなたも、是非参加しませんか。

写真は11日募金とお昼の定例会の様子です。